

令和7年度

ひゅうが女子未来カフェ 報告書



第1回ひゅうが女子未来カフェ (R7.11.30)

日向市総合政策部
地域コミュニティ課
人権・同和行政・男女共同参画推進室

令和8年2月作成

目次

はじめに	2 P
1 ひゅうが女子未来カフェの概要について	3 P
(1) 第1回ひゅうが女子未来カフェ	3 P
(2) 第2回ひゅうが女子未来カフェ	6 P
2 プレゼンテーションの内容	9 P
(1) ごきげんに暮らせるコミュニティづくり	9 P
(2) 良い休日の過ごし方	10 P
(3) みんなが集まる憩いの場所	11 P
(4) ご機嫌で子育てするまち	12 P
3 市長からのコメント	13 P
4 市長との意見交換で出された意見まとめ	13 P

はじめに

日向市では人口減少が進んでおり、若者、特に若い女性の市外流出や UI ターン率の低さが大きな課題となっています。

日向市をより「住み続けたいまち」「帰ってきたいまち」にしていくために、女性が本音で語り合える場を設けたいと考え、女性の視点から「日向市の未来」や魅力向上について考える「ひゅうが女子未来カフェ」を全2回で開催しました。

第1回では、カフェのようにリラックスした雰囲気、飲み物やお菓子を楽しみながらグループワークを行いました。暮らし・結婚・出産・子育て・進学・仕事などをテーマに、高校生から70代までの幅広い世代の女性の皆さんに、普段の生活で感じている本音の意見やアイデアを出し合ってもらい、まとめました。

第2回では、第1回で出された意見やアイデアについて、参加者から日向市長へプレゼンテーションを行い、意見交換を行いました。

「ひゅうが女子未来カフェ」が、性別や世代に関わらず、誰もが自分らしい暮らし方・働き方を選び、活躍できる日向市の実現に向けた契機となることを願っております。



1. ひゅうが女子未来カフェの概要について

(1) 第1回ひゅうが女子未来カフェ

日 時：令和7年11月30日（日）13：30～17：00

場 所：日向市役所1階市民ホール

参加者：日向市に在住または出身、通学・勤務している女性 28人

進行役：日向市女性活躍推進アドバイザー

株式会社シンク・オブ・アザーズ

代表取締役 難波 裕扶子（なんば ゆうこ）さん

内 容：

①グループワーク

- ・ 仮想の女性10人の物語を通じて、参加者自身の「痛み」を共有

②ワールドカフェ

- ・ 日向市で暮らす中で「もっとこうだったらいいのに」と思うこと
- ・ 10年後の日向市で「ごきげん＝ウェルビーイング」に暮らすために「続けていきたいこと」「見直したいこと」は何か

③OST（オープン・スペース・テクノロジー）

- ・ 10年後の日向市が、性別や年代に関わらずウェルビーイングなまちになるために、この場で話し合いたいテーマを参加者が紙に書き、提示する。
- ・ 他の参加者は、自分が話したいテーマのもとに集まってグループをつくり、そこで話し合った内容をハーベストシートにまとめて発表

主 催：日向市総合政策部地域コミュニティ課 男女共同参画推進係

ひゅうが女子未来カフェ

あなたの声で日向市の未来をもっとステキに

日向地域に暮らす女性の視点から考える
 「日向市の未来」や「魅力UP」について
 飲み物やお菓子を楽しみながらおしゃべりしましょう。
 暮らし・結婚・出産・子育て・進学・仕事など、
 女性の『困った!』を解決するアイデアを出し合いませんか？



参加無料
要申込

- とき** 11月30日(日)
13:30~16:30 (受付/13:00~)
- ところ** 日向市役所1階市民ホール
(日向市本町10番5号)
- 対象** 日向市に在住または出身、
通学・勤務されている女性 (高校生以上)
お子様連れOK♡
- 定員** 30人程度
- 申込方法** 詳しくは裏面をご覧ください
- 申込期限** 11月12日(木)



進行役 日向市女性活躍推進アドバイザー
 株式会社シンク・オブ・アザース代表取締役 *なんば* 難波 *ゆうこ* 裕扶子さん

みなさんの
アイデアを
日向市長へ
提案します!

みなさんのアイデアは、今後の日向市の施策に活かされます。意見やアイデアをまとめ、12月に日向市長へ提案する予定です。



日向市がもっと
 「住み続けたいまち」「帰ってきたいまち」になる未来を
 一緒に創っていきましょう。

お問い合わせ
 日向市役所地域コミュニティ課 人権・同和行政・男女共同参画推進室 主催/日向市
 ☎0982・66・1006

ひゅうが女子未来カフェ





第1回 ワールドカフェ



第1回 OST (オープン・スペース・テクノロジー)



第1回 ハーベストシートによる発表

(2) 第2回ひょうが女子未来カフェ

日 時：令和7年12月20日（土）13：30～17：00

場 所：日向市役所1階市民ホール

参加者：日向市に在住または出身、通学・勤務している女性 23人

進行役：日向市女性活躍推進アドバイザー

株式会社シンク・オブ・アザーズ

代表取締役 難波 裕扶子（なんば ゆうこ）さん

内 容：

①第1回の振り返り

②市長へのプレゼンテーション

・第1回でまとめたハーベストシートをもとに、日向市を「ごきげん＝ウェルビーイング」なまちにしていくためのアイデアを発表（4テーマ）

②参加者と市長との意見交換

主 催：日向市総合政策部地域コミュニティ課 男女共同参画推進係

第2回

ひょうが女子未来カフェ

市長へのプレゼンテーション & 意見交換会

11月30日に開催した第1回では
日向地域にお住まいの女性の皆さんが本音で語り合い、
日向市を「住み続けたいまち」「帰ってきたいまち」にするための
大切な意見やアイデアをたくさん出してくださいました。
第2回では、それらのアイデアを市長にプレゼンテーションし、
さらに意見交換をして深めていきます。



プレゼンテーション: 4つのテーマ

- ご機嫌で子育てができるまち
- みんなが集まる憩いの場所
- ご機嫌に暮らせるコミュニティづくり
- 素敵な休日が過ごせるまち

参加
無料

とき **12月20日(土)**
13:30~15:00 (受付/13:00~)

ところ 日向市役所1階市民ホール

対象 日向市に在住、出身、通学・勤務
されている女性ならどなたでも

託児所 託児をご希望の方は、
12月15日(木)までにご連絡ください。

進行役 日向市女性活躍推進アドバイザー
株式会社シンク・オブ・アザーズ代表取締役 **難波 裕扶子**さん



女性の視点から未来のまちの姿を考え、市長と語り合う明るい時間です。

ぜひお気軽にご参加ください。

お問い合わせ

日向市役所地域コミュニティ課 人権・同和行政・男女共同参画推進室 主催/日向市
☎0982・66・1006

ひょうが女子未来カフェ





第2回 市長へのプレゼンテーション



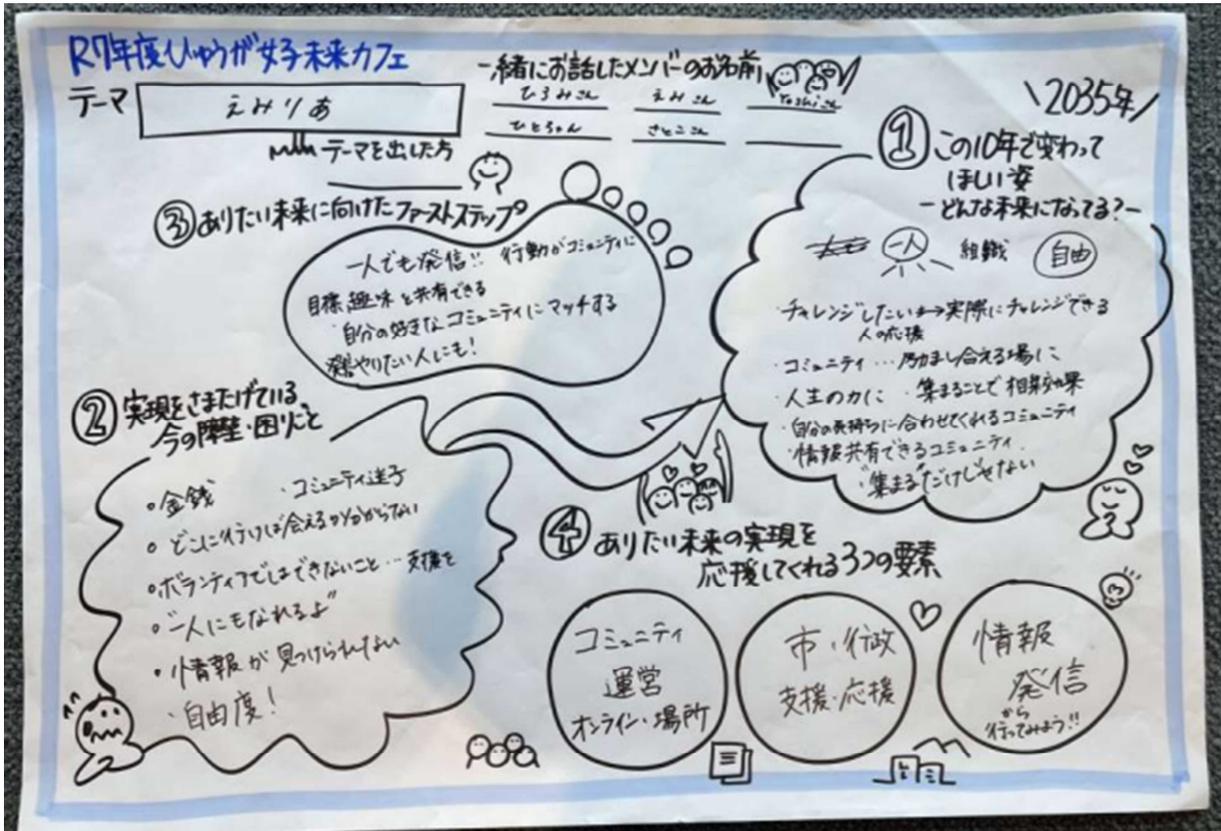
第2回 市長からのコメント



第2回 ひゅうが女子未来カフェのまとめ

2. プレゼンテーションの内容

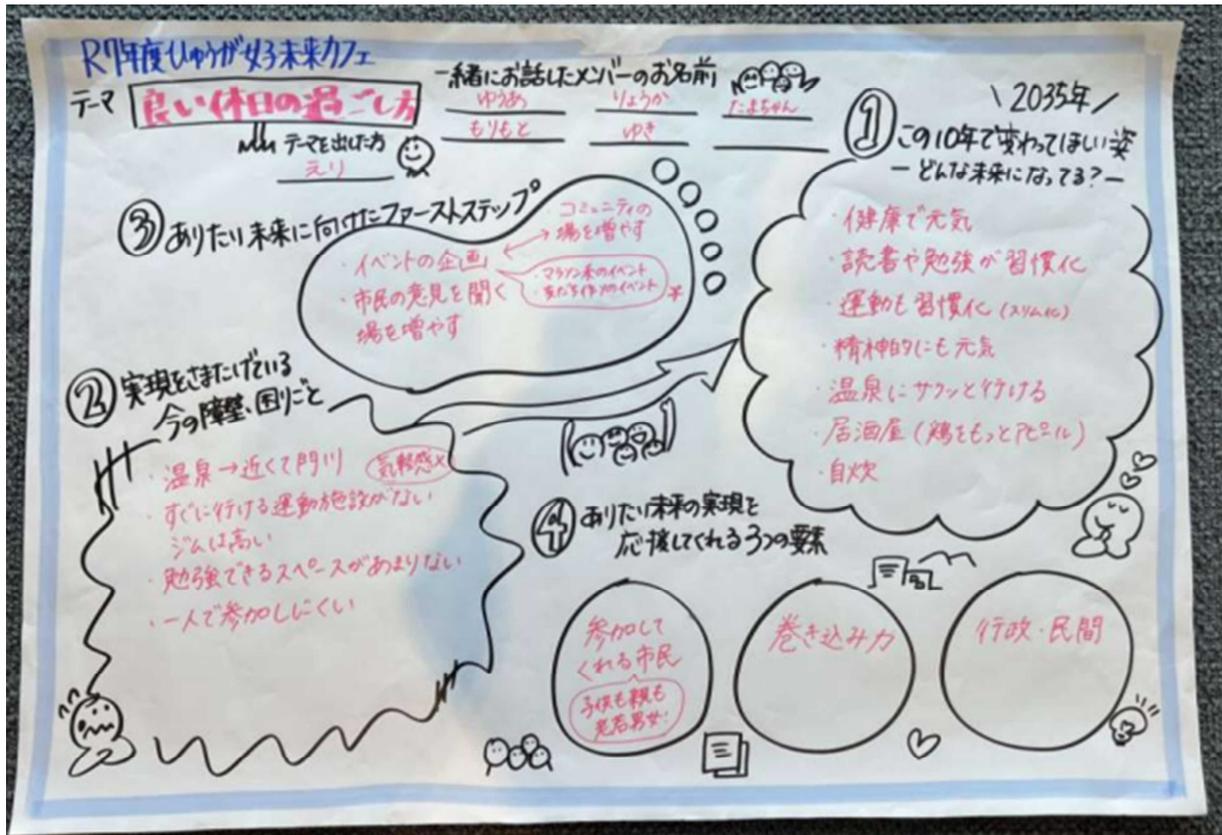
(1) テーマ1 「ごきげんに暮らせるコミュニティづくり」



ハーベストシート①

- この10年で変わってほしい姿
 - 一人でいたい時、誰かと集まりたい時など、その時の気持ちに合わせて選べる「柔軟なコミュニティ」がある。人が集まるだけでなく、オンラインでも情報共有できるコミュニティがある。
- 実現をさまたげている今の障壁・困りごと
 - 自分が求めるコミュニティとの出会い方が分からない。資金面の課題（ボランティアだけではコミュニティづくりや運営が難しい）。
- ありたい未来へ向けたファーストステップ
 - 勇気を持って一人でも情報発信してみる（趣味・目標などの共有が仲間との出会いにつながる）。
- ありたい未来の実現を応援してくれる3つの要素
 - ①情報発信
 - ②オンラインやリアルでの「場」づくり
 - ③行政の支援・応援の仕組み

(2) テーマ2 「良い休日の過ごし方」



ハーベストシート②

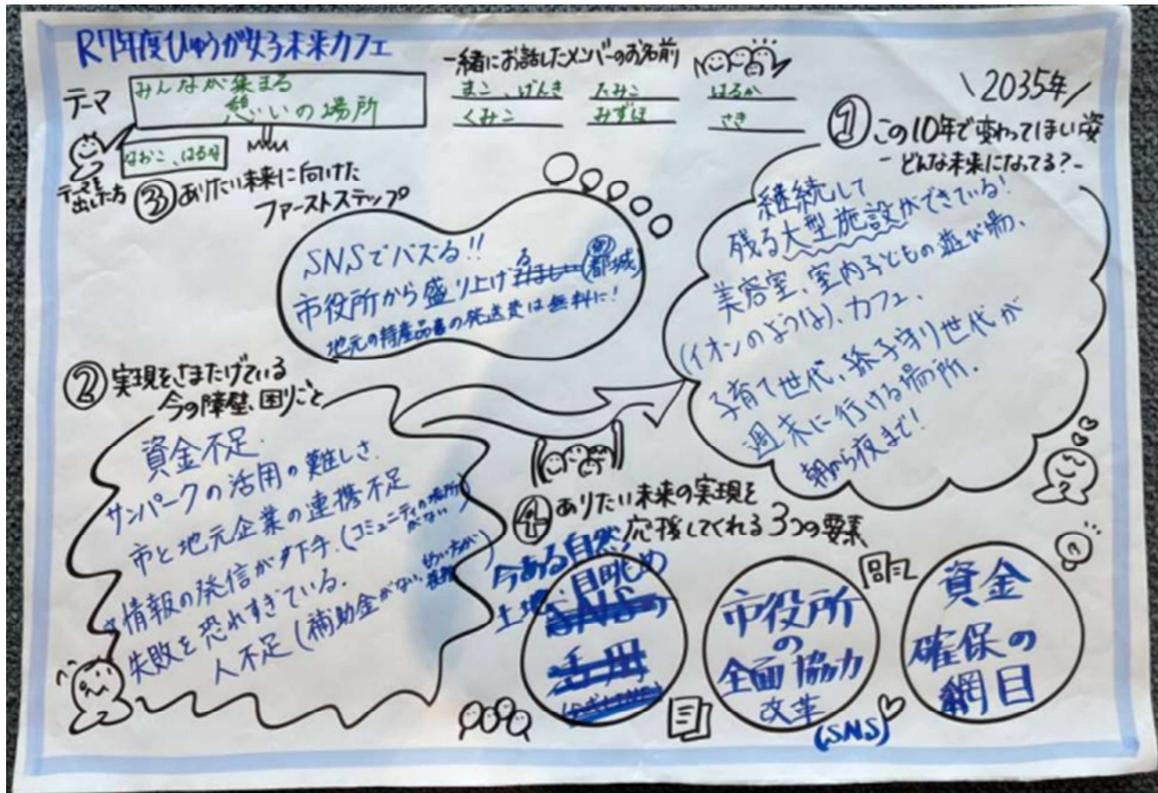
- この10年で変わってほしい姿

気軽に満たされる休日。読書や勉強、サウナや温泉、自炊で気持ちをリセット、友人と語り合う、ドライブ等の時間を持つことができ、心身ともに健康になれる。
- 実現をさまたげている今の障壁・困りごと

運動施設、温泉施設等の身近な癒しの場の少なさ。ジム等の費用負担。雨の日に過ごせる屋内施設や子連れで安心できる場所の不足。一人で気軽に行ける場所の不足。
- ありたい未来へ向けたファーストステップ

コミュニティの場を増やすイベントの企画。市民の意見を聞く場を増やす。
- ありたい未来の実現を応援してくれる3つの要素
 - ①全世代の市民が安心して参加しやすい雰囲気づくり
 - ②短時間でも参加しやすく、自然に交流できる仕組みづくり
 - ③行政や民間の支援による施設充実（屋内施設・図書館・癒しスポット等）

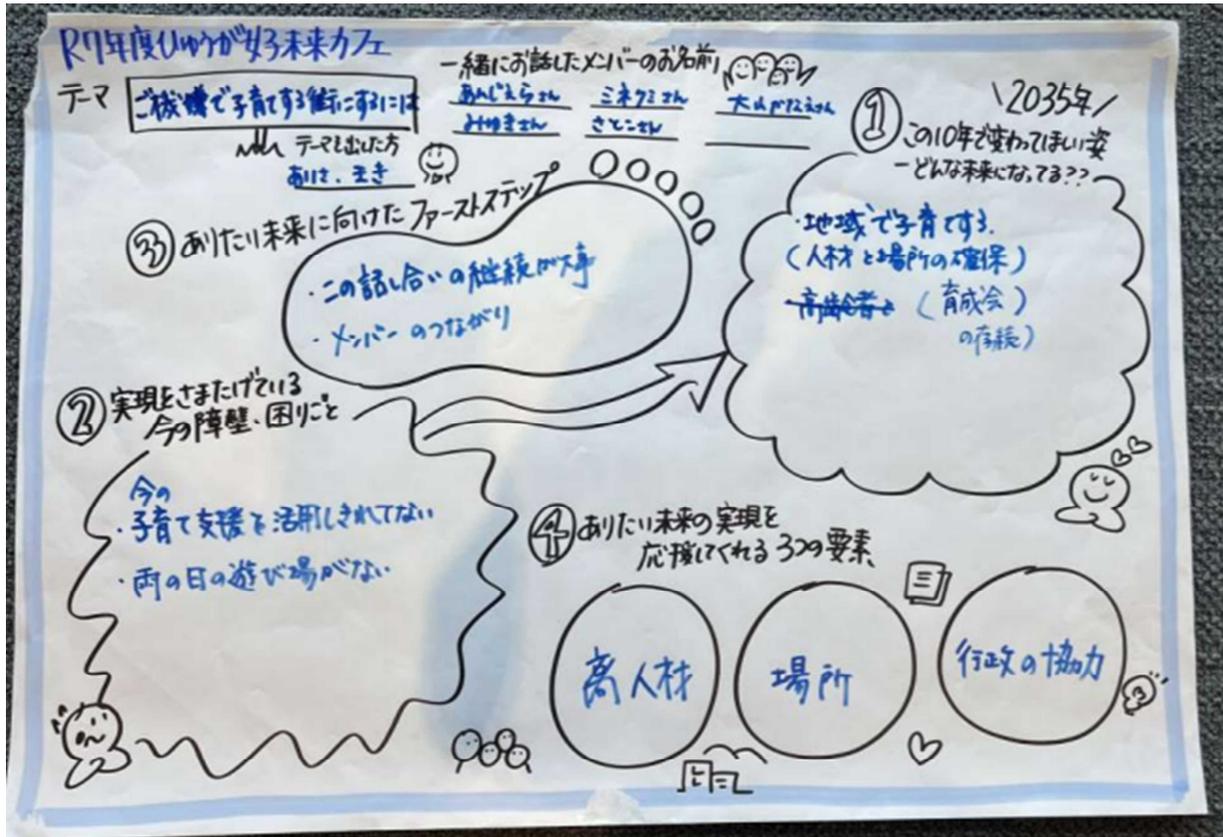
(3) テーマ3 「みんなが集まる憩いの場所」



ハーベストシート③

- この10年で変わってほしい姿
 - 雨の日や暑い日、寒い日でも、子どもから高齢者までが楽しめる「継続して残る大型施設（遊び・憩いの場）」がある。
- 実現をさまたげている今の障壁・困りごと
 - 資金や人材不足。既存施設（サンパーク等）の活用の難しさ。市と地元企業との連携不足。日向市の魅力が伝わりきれていない（情報発信の課題）。
- ありたい未来へ向けたファーストステップ
 - SNSを活用した日向市の魅力の発信。市役所内のSNS発信が得意な人材の活用。
- ありたい未来の実現を応援してくれる3つの要素
 - ①今ある景観・資源の活用
 - ②市の協力（体制面の後押し）
 - ③企業等の協力を得た資金確保と、継続可能な運営の仕組み。

(4) テーマ4 「ご機嫌で子育てするまち」



ハーベストシート④

- この10年で変わってほしい姿
 地域で子育てできるまち。子どもがのびのび遊び、保護者が心に余裕を持ち笑顔で暮らせる環境。地域住民・高齢者・保育関係者等とも関われる場がある。
- 実現をさまたげている今の障壁・困りごと
 産後ケア・子育て支援がもっと気軽に利用でき、相談しやすい制度にすること。雨の日に室内で遊べる広いスペース等がないこと。
- ありたい未来へ向けたファーストステップ
 小規模な取り組みから始め、このような話し合いの場を通じてできたつながりを生かして、継続的に進める。
- ありたい未来の実現を応援してくれる3つの要素
 - ①人材 (地域住民の協力)
 - ②場所 (図書館・公民館等の既存施設の活用 / 必要に応じた新設)
 - ③行政の協力 (運用・支援・補助金等)

3. 市長からのコメント

- 限られた財源の中で、住民の満足度の高い施策・施設をどう実現するかが課題。
- 公共施設は「行政が整備して市民が利用する」型ではなく、市民と一緒に作り上げる方向になっている（例：図書館整備の検討）。
- 図書館等の「居場所づくり」は、読書や勉強だけでなく、ふらっと立ち寄れる、一人でもグループでも居心地よい等、多目的な使い方を前提に検討したい。
- コミュニティづくりは難しい課題だが、SNS等により“つながる”可能性は高まっている。既存の支援拠点（市民活動支援センター等）の周知・活用も重要と考えている。
- 行政から発信する「リラックスタウン日向」と、市民の実感のずれを感じている。女性が癒される場所や情報共有の場づくりも重要であり、エステやネイルサロンのようなサービスや美味しい店の情報を共有できるとよい。
- 子育て支援は何でも無償ではなく、有償にすることでサービスの質を保ち、より良い支援を提供するという考え方も重要と考える。ただし、料金は高すぎず、多くの人ができるようにすることが重要。
- 「日向市こども家庭センター ひなたの森」など、相談支援情報の周知が課題であり、市民に確実に届く発信方法の工夫が必要。

4. 市長との意見交換で出された意見まとめ

- 生涯学習講座はすぐ定員いっぱいになり、仕事をしていると参加しづらい。自主的に活動することで改善される部分もあると思う。
- 日向の女性たちには一歩踏み出す勇気を持って、会議の場でも発言するよう心がけてほしい。私も恐怖心と戦いながら勇気を持って発言している。
- 第1回ひゅうが女子未来カフェでも、若い人が積極的に手を挙げて発言されるのを見て素晴らしいと感じた。表現力を高め、良いところを周囲に伝え喜び合うことが大切。
- 女性だから夢を諦めざるを得ないことや、本当の理由を言えない環境がある。言いやすい環境、パートナーや家族が心の支えになると感じている。
- 移住者として、県外から来た時は不安が大きかった。友達作りや参加しやすいイベントがあると嬉しい。
- 経済的事情で県外に進学し看護学校へ進んだ経験がある。Uターン後は地元の文化や視線に違和感を感じたが、地域との関わりで心が和らいた。コミュニティづくりの場がもっと必要と考えている。
- PTA活動を通じて、もっと気軽に子育てや家庭、仕事の悩みを共有し合える居場所づくりが重要と感じている。母親の心の安定が家庭の雰囲気に影響し、地域全体で支える仕組みが必要だと考える。

- 大病を経験し、今は周囲のために役立つことをしたいと考えている。子ども食堂や女性が集まる場の運営など、自分にできることを模索中。
- 病気で言葉を発することができない時期があったが、子どもには生きていく上で大事なことを伝えておきたいという思いがある。心地よく自分の機嫌を取る方法や人間関係の築き方を伝えてあげたい。
- 子どもたちには困った時に困ったと周囲に伝えられるように育てている。子どもには、楽な道を選ばず、大変でも自分が楽しいと思える道を目指してほしい。
- 障がい者として働く中、共生社会の実現を望んでいる。誰にも支配されず、自分で考え、自分で決定して行動できる社会になってほしい。
- 育休明けの同僚を支えたい。困っている人に役立つために自分にできることを考えながら仕事をしたい。
- 子育てしやすい街づくりで安心して子どもが産めれば、地域に活力が出てくる。子どもが泣くのは当たり前。それを受け入れて、社会がみんなで子育てすればいい。
- 会議の男女比は男性が圧倒的に多い。団体の長が男性中心であることが原因。女性が率先して会長になるなどして、男女比が半々になるような変化があれば嬉しい。
- この場は女性の意見を聞くために設けられたが、実際には、性別に関わらず誰もが自分らしく生きる上で感じる生きづらさや痛みと向き合う場だった。女性の声は社会や制度の問題を映し出すセンサーの役割を果たしており、今日の対話は個人の努力や我慢の問題ではなく、構造的な課題として捉え直す重要なプロセスだった。
- この場で交わされた声は単なる要望ではなく、これからの政策や取り組みの出発点となる。市民と行政が共に考え、関わり続けることで、誰もが自分らしく生きられるまちを目指す一歩として、未来にしっかりつなげていくことが求められる。



第2回ひゅうが女子未来カフェ (R7. 12. 20)